

はじめに

江戸時代末期から明治時代にかけて、急激に進んだ近代化の中で、写真に関する技術も浸透していきました。明治時代の中ごろには、技術の発達に伴い、写真は急速に身近なものになっていきましたが、カメラをはじめとする写真用品は高価であり、誰もが撮影を楽しむという訳にはいきませんでした。

そこで活躍したのが、技術を身に付けた“写真師”たちです。写真館を構え、来館者の肖像だけでなく、積極的に野外に出掛け、風景や事件・事故等の様子も撮影しました。それらを絵葉書等にして販売することで、一般の人々にその様子を広く知らせるなど、現在の報道カメラマンのような役割もしていました。

千葉県の写真館は、明治7(1874)年に豊田尚一が現在の県庁近く(千葉市中央区市場町)に開設したのが最初と考えられています。その数は、明治後半期から急速に増加し、多くの写真師たちがその腕を競っていたようです。

今回の展示では、文書館所蔵資料を中心に、明治時代における県内の人々、風景や出来事の写真を紹介します。100年以上前の“記憶”に想いを馳せていただければ幸いです。

最後に、今回の企画展を開催するに当たり、貴重な資料や情報をお寄せいただきました皆様に感謝申し上げます。

凡 例

- 1 本図録は平成28年10月18日から平成29年3月11日まで開催する企画展「写真に見る明治時代の千葉県」の展示図録です。
- 2 期間中に展示資料の一部を替えることがあります。
- 3 図録掲載順は必ずしも展示順と一致するものではありません。
- 4 《 》内は、資料の出典及び所蔵機関名等を示しています。
- 5 本展示と図録の編集は当館県史・古文書課副主幹 小笠原永隆 が担当しました。

1 明治時代における写真撮影

日本における最初の写真は、安政4(1857)年に当時の薩摩藩主島津斉彬の肖像です。これは、銀板法で撮影されたものですが、日本では本格化しませんでした。これに前後して湿板法も伝わり、外国人からこの技術を学んだ上野彦馬・下岡蓮杖が文久2(1862)年にそれぞれ長崎・横浜で営業写真師として開業します。明治に入ると(1868年～)写真館が増加し、湿板写真が全盛期を迎えます。



明治時代のカメラ 《銚子カメラ博物館蔵》

いずれも湿板時代のカメラですが、左は組立暗箱と呼ばれるもので、折りたたんで野外撮影にも使われました。右は箱型カメラと呼ばれ、台座に取り付け、主に写真館での室内撮影に使用されました。